

令和元年度 霧島市歯科保健専門委員会 会議要旨

開催日時	令和元年 8 月 20 日（火） 19:30～21:00		
開催場所	国分シビックセンター公民館 3階 大研修室		
出席委員	君野委員長、磯脇委員、泉委員、岩切委員、餅原委員、植木委員、多賀委員、原田委員、山野委員、神田委員、境田委員		
事務局	<p>【健康増進課】林課長、中村保健予防グループ長、東郷主査、高主査、黒松主事、大山主事</p> <p>【すこやか保健センター】島木所長、重留副所長、上小園地域保健グループサブリーダー、東主査、曾山囑託歯科衛生士</p> <p>【長寿・障害福祉課】堀之内課長、下津曲主査</p> <p>【学校教育課】瀆尻安全・保健体育グループ長</p>		
公開・一部非公開又は非公開の別	公開	傍聴人数	2人
議事	<p>(1) 「健康きりしま 21(第3次)」計画 (歯・口腔の健康分野) の進捗状況と取組みについて</p> <p>(2) 長寿・障害福祉課の取組みについて</p> <p>(3) その他</p>		
協議結果等の概要	委：委員	事：事務局	
<p>(1) 「健康きりしま 21(第3次)」計画 (歯・口腔の健康分野) の進捗状況と取組みについて</p> <p>⇒ 事務局が資料に沿って説明。委員からの主な質問は次のとおり。</p> <p>【歯・口腔の健康への取組みについて】</p> <p>委：「歯・口腔の健康への主な取組み」の中に出前講座とあるが、一年に何件くらい実施しているか。</p> <p>事：平成 30 年度は 4 回であった。成人が 2 回、乳幼児が 2 回である。</p> <p>【口腔内の環境について】</p> <p>委：母親が子どもに対して関わりが深いほど、むし歯が少ないと思っている。口腔内の環境が悪い人の中にネグレクトを発見することはないか。 霧島市で虐待の例があったと思うが、その子どもの口腔内環境はどうだったのか把握されていないか。</p> <p>委：今はむし歯の数は年々少なくなってきているが、両極端化していて、ひどい人もいれば全くむし歯のない人もいるということを行政も把握していただけたらいいかと思う。</p> <p>【園での取組みについて】</p> <p>委：園では、噛むことに重点を置いている。よく噛めるように、小さく刻みすぎない、よく噛まないと飲み込めないおやつなどの工夫をしている。そういう工夫をしながら</p>			

ら、しっかり歯みがきもするように指導している。

【歯周病検診の受診率の向上について】

委：歯周病検診の受診率の向上について、今後の取組みを考えているか。
歯周病検診を25歳からにする等の取組みはないか。

事：歯周病検診の受診率向上のための取組みとしては、市民への案内通知を封筒に案内文書を入れて送っていたものを、昨年度から圧着封筒にして歯周病検診のお知らせであることがわかりやすいように工夫したが、受診率は平成29年度の12.9%から12.8%とほぼ変わらなかった。

本市としても、歯周病検診の受診率向上を図るために考えられるところは努力しているところであり、妊婦歯周病検診については、受診票を母子健康手帳に綴り産婦人科でも受診状況を確認できるようにしており、産婦人科から妊婦に必ず声掛けをしていただいている。

先生方からもいい方法があったら教えていただけたらと思う。

歯周病検診の30歳より若い方に対象を広げることについては、予算の関係もあり、今後検討していきたいと思っている。

【薬局における取組みについて】

委：フッ化物洗口が始まったことで親も興味を持つし、子どもも大きくなってからも歯科衛生に興味を持って取り組んでいけると思う。
糖尿病と歯周病の連携について、糖尿病の患者さんが来て歯科受診されているかを見ると、糖尿病のひどい患者さんは歯科受診率が低かったと個人的に思っている。
そういう方にどうやって歯科受診を勧めるか、薬局でできることはないか考えているところである。

【フッ化物洗口について】

委：小学校でのフッ化物洗口事業は何年間とかの決まりがあるのか。
成果の発表はあるのか。

事：期間は決まっていない。
フッ化物洗口は乳歯から永久歯に生え変わる時期に実施することが一番効果的である。少しでも子ども達の歯の状況がよくなるための一つの手法として、フッ化物洗口を取り入れている。
成果については、全ての小学校で実施するようになってからがスタートであると考えている。

【むし歯と貧困について】

委：むし歯と貧困世帯は関係しているのか。

委：むし歯の多いところは所得が低いというデータもある。治療に行くことができないということである。市としては、乳幼児医療制度といったものがある。

(2) 長寿・障害福祉課の取組みについて

⇒ 事務局が資料に沿って説明。委員からの主な質問は次のとおり。

【専門職について】

- 委**：2025年には団塊の世代が後期高齢になり、認知症患者の数も増えていく。市民が行動しやすいために対応できる人材は足りているのか。歯科医師会の立場としては、常勤の歯科衛生士等の専門職がいた方が行政側の行動もしやすいだろうし、市民からの問合せにも専門職がいた方がいいのではないかと。
- 事**：体制については、職員だけでは賄えない部分もあるので、各事業所の職員（ライフサポートワーカー）を養成して、いろんな分野の勉強をしていただいている。地域の中で解決できるような体制づくり、圏域ごとにネットワークを作る準備もしている。

【歯科訪問診療について】

- 委**：歯科訪問診療の依頼はどこにすればいいのかという質問を受けることが多い。また、その他に市民が活用できるものがあるか。
- 事**：お口いきいき連携システムを県歯科医師会でされていると思うが、昨年度は介護支援専門員に周知した。患者からの要望の調整については、先生方とルートの確認などをしていきたい。

【高齢者の口の健康への取組みについて】

- 委**：元気一番講座では、地域に自分達で集まって来れる元気な方が対象になっており、歯科衛生士の講座を受けて勉強になったと帰られる方が多い。少人数でも会が行われるので、質問がしやすい雰囲気に参加者からはいい意見が聞かれている。歯のことは気になっていて歯科医院を受診したくても、なかなか出向くことができない方々がいる。訪問をした際は歯医者に行っているかを聞くようにしている。

(3) その他

【8020 運動達成者表彰について】

⇒ 事務局が資料に沿って説明。委員からの質問なし。

【口腔がん検診について】

- 委**：口腔がんは希少がんに分類されるため軽視されるが、その分、発見が遅れたりステージが進んでからの受診が多い。鹿児島県では口腔がんでの死亡率が高い。歯科医師会では、健康福祉まつりで市民を対象に無料で診断しているが、健康意識の高い人やリピーターが多く、多くの市民に対して診れていない。歯周病検診と口腔がん検診を組合わせて実施することで、歯周病検診の受診率向上も見込めるのではないかと。
- 市では口腔がん検診に対して、どのように考えているのか。

事：国では口腔がんは希少がんと分類し、市町村が実施するがん検診に入っていない状況である。口腔がんの実施については法的根拠がなく、県内でも実施している自治体もないため、実施については慎重に検討していきたいと考えている。
もし実施するとなった場合は、問診票や、要精密検査となった場合のフォローをどうするか等、具体的な実施方法について検討が必要になると考えている。
全国では市町村独自で実施しているところもあるので、先進事例を参考に調査・研究していきたい。

委：行政の対策型検診で実施するのかは考えないといけない。
いろいろなところの状況を聞きながら進めていくのか、かかりつけ歯科医で早期発見していくのかということになっていく。歯周病検診自体の受診率が低いので、まずはそれを上げながら、かかりつけ歯科医の普及啓発をしながらやっていくのがいいのでは。
厚生労働省のがん検診のあり方検討会の中で、地域における歯科医師会の体制、研修制度、住民への普及・啓発、データ収集、スクリーニングのあり方、予防より早期発見、早期治療の対策が不十分であるということが言われている。
国もなかなか進んでいない状況なので、国の動きも注視しながら考えていければ。

【歯科衛生士の正規雇用・歯科保健条例について】

委：口腔がんや在宅の多職種連携等もあるので、是非、歯科衛生士の正規雇用を検討していただきたい。

また、歯科保健条例については、どのように考えているか。

事：市としても条例の必要性は認識しているが、まずは健康づくり条例というような健康全体についての条例を制定して、その中で歯科口腔も併せて検討したいと思っている。

事：歯科衛生士の正規職員の雇用については、担当部署としても必要であると認識している。

会議資料	<p>【配布資料】</p> <ul style="list-style-type: none">○会次第○令和元年度霧島市歯科保健専門委員会委員名簿○霧島市健康・生きがいづくり推進における各種委員会の設置に関する要綱○霧島市附属機関等の会議の公開に関する指針○健康・生きがいづくり推進の組織体制○健康きりしま 21(第3次)計画(歯・口腔の健康分野)の進捗状況と取組みについて○長寿・障害福祉課の取組みについて○令和元年度 8020 運動達成者表彰について
------	---